

統計データからみた世界のアワビ類の生産量について

分場だより第 328 号で、貿易統計からみたアワビ類の輸入の現状についてご紹介しました。では世界ではどこでどの程度生産されているのでしょうか。今回は F A O（世界食料機関）が取りまとめた統計データより、世界のアワビ類の漁業と養殖による生産量についてご紹介します。

過去 50 年間（1961～2010 年）のアワビ類の国別の漁獲量の推移を図 1 にまとめました。近年最も多いのはオーストラリアで、1960 年代後半から 1970 年代前半と 1980 年代には 7,000～8,000 トンを記録し、その後減少しましたが、ここ 20 年間は 5,000 トン以上を維持しています。2 番目に多いのが日本で、1960 年代後半には 6,000 トン以上でしたが、その後減少し、近年は 2,000 トン程度、2010 年には 1,500 トン以下となっています。3 番目に多いのがニュージーランドで 1,000 トン程度となっています。メキシコは 1960 年代には 7,000～8,000 トンでしたが、近年は 1,000 トン以下に減少しています。

漁獲の対象となる主な種類は、オーストラリアではアカアワビ (Blacklip abalone；学名 *Haliotis rubra*) やウスヒラアワビ (Greenlip abalone；学名 *Haliotis laevis*)、日本ではエゾアワビやクロアワビ、メガイアワビ、トコブシなどで、ニュージーランドではヘリトリアワビ (Blackfoot Paua；学名 *Haliotis iris*) やサザナミトコブシ (Yellowfoot Paua；学名 *Haliotis australis*) のようです。

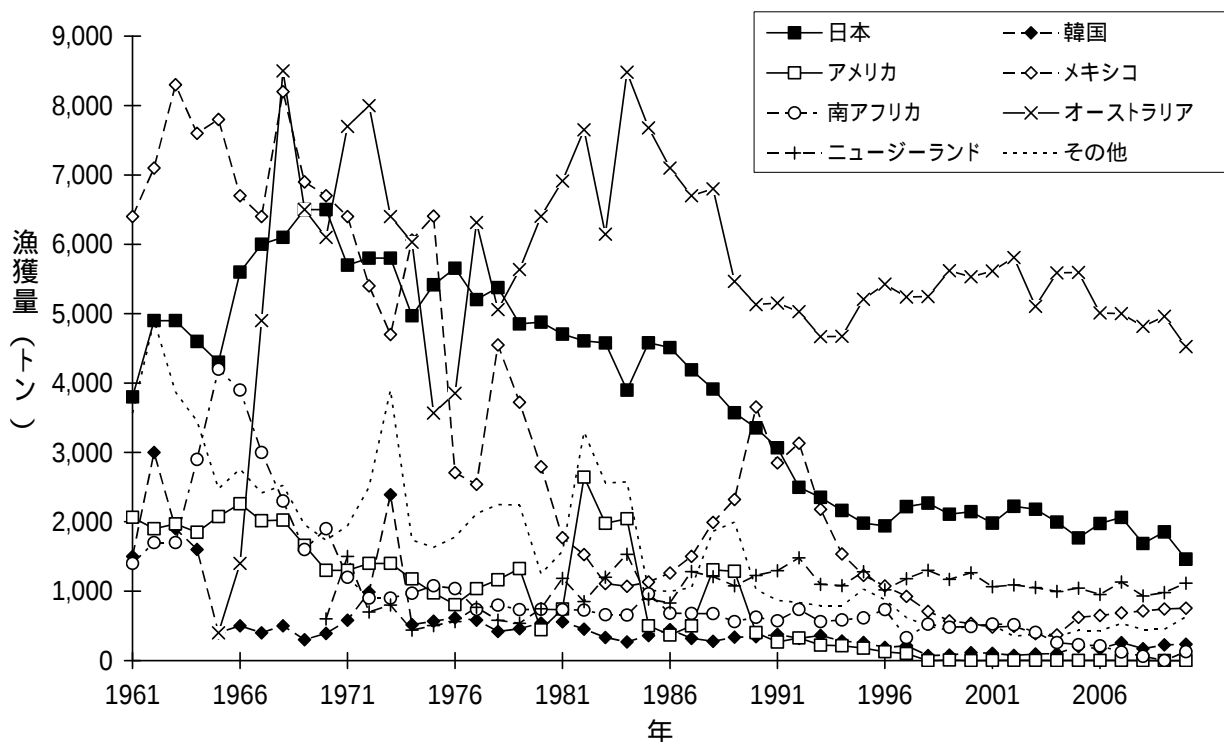


図 1 世界のアワビ類の漁獲量の推移

次に、養殖の生産量について、中国と韓国を除いた過去 30 年間（1981～2010 年）のアワビ類の養殖生産量の推移を図 2 に示しました。1970 年代以前はほとんど養殖生産量がありませんでしたので、図には 1981 年以降のデータを記載しましたが、養殖の生産量が増えたのはここ 10 年の間で、南アフリカやチリ、オーストラリアが多い国です。

養殖されている主な種類は、南アフリカではミダノアワビ（Perlemoen abalone；学名 *Haliotis midae*）、チリではアカネアワビ（Red abalone；学名 *Haliotis rufescens*）、オーストラリアではウスヒラアワビが多いようです。

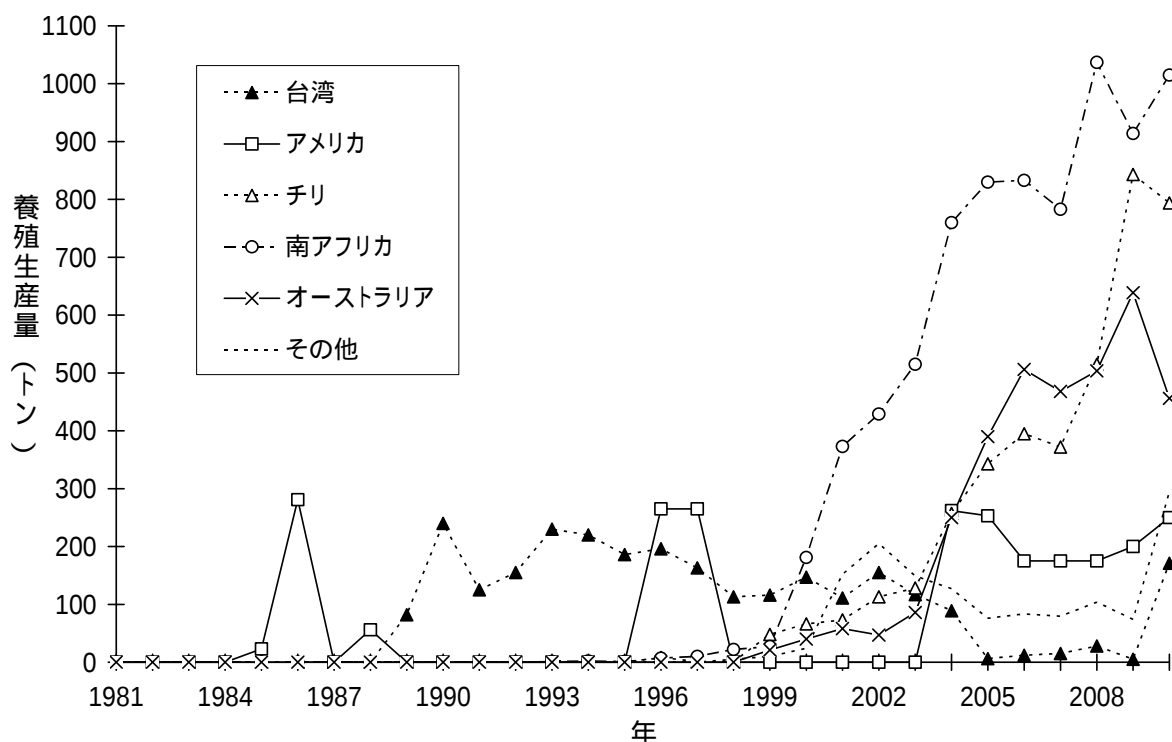


図 2 世界のアワビ類の養殖生産量の推移（中国、韓国を除く）

中国と韓国の過去 15 年間の養殖の生産量を図 3 に示しました。この 2 カ国の生産量は近年急激に増加しています。他の国と比べて桁が違っていますので、別の図にまとめました。2010 年のデータでは、韓国は 6,228 トン、中国はなんと 56,511 トンとなっています。

養殖されている主な種類は、両国ともエゾアワビで、養殖されたコンブやワカメを餌として利用しているようです。分場だより第 328 号でお知らせしたように、韓国からは約 1,000 トンが日本に輸入されています。一方、中国からも輸入されていますが数 100 トン程度で、多くが中国国内で消費されているようです。

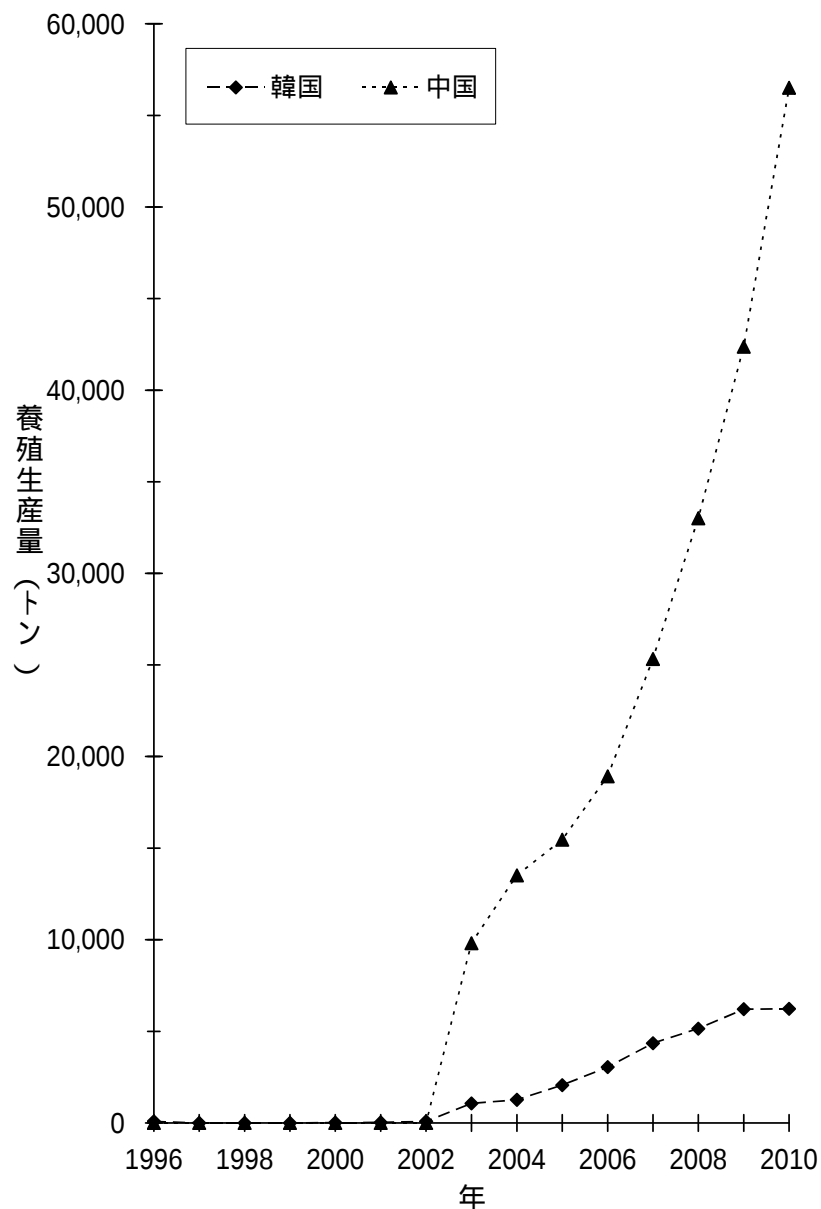


図3 中国と韓国のアワビ類の養殖生産量の推移

全体的にみると、漁獲量は減少傾向にあり、資源を維持するためには、乱獲の防止、密漁対策、磯焼け対策など、資源の管理がますます重要になってくると思います。

一方、養殖の生産量は急増しています。日本ではアワビの養殖業はあまり盛んではないのですが、今後養殖をしていくためには、海外からの輸入に対抗する必要があります。特徴ある販売戦略を進めるのか、大幅なコストダウンが必要になってくるのではないかと思います。

参考資料

・統計データを得るためには、FAO 統計データベース（FAOSTAT）（<http://faostat.fao.org/>）にアクセスして、ページ内の Fisheries→Fisheries and Aquaculture Department Statistics をクリックして、ページ内の「FishStat Plus」をクリックして閲覧ソフト（FishStat Plus）をダウンロードする。データは同じページの「Capture Production」や「Aquaculture Production」をクリックしてダウンロードしてください。FishStat の利用方法は、JAICAF（社団法人国際農林業協働協会）の日本事務所の HP（<http://www.jaicaf.or.jp/>）にアクセスして、ページ内の資料室→FAOSTAT 利用の手引きをクリックすれば手引きのページに行き、ダウンロードできます。

養殖事情については以下の資料を参照してください。

- ・原素之（2010）：アワビ～中国・韓国で養殖が拡大、日本の挽回の可能性は？～（「よくわかる！世界の養殖業 2010 年版」），養殖臨時増刊号，47(4)，55-59.
- ・山川紘（2008）：急増する韓国のアワビ養殖，アクアネット，11(6)，42-47.
- ・月刊養殖編集部（1999）：チリのアワビ養殖と海外戦略，養殖，36(12)，96-98.
- ・オーストラリア・サザン・シーフードグループ（1999）：豪州のアワビ養殖技術と日本でのマーケティング展開，養殖，36(5)，98-101.

（伊藤 円）